

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2023年6月4日（日）

主 題：「きびしい注意」

— 真実の愛に生きる —

テキスト：第2ヨハネの手紙7～11節

### はじめに

・おはようございます。

・前回、私たちは「愛し合うことの勧め」を学びました。

私たち人間は、互いに愛し合うことの大切さを教えられました。しかし人間的な愛は、時間の経過とともに変化していくことも覚えました。神が与えてくださる「真の愛」は、いつまでも変わりません。使徒パウロは言いました。 1コリント人への手紙13章

13:1 たとえ私が人の異言や御使いの異言で話しても、愛がなければ、騒がしいどらや、うるさいシンバルと同じです。

13:2 たとえ私が預言の賜物を持ち、あらゆる奥義とあらゆる知識に通じていても、たとえ山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、私は無に等しいのです。

・聖書が教える愛とは、イエス・キリストが表された「愛」（アガペー愛）です。人知をはるかに超えた愛です。そしてどこまでも赦し、どこまでも与えていく愛です。

・使徒ヨハネは聖徒たちに、次のように勧めました。

1:6 私たちが御父の命令にしたがって歩むこと、それが愛です。あなたがたが初めから聞いているように、愛のうちを歩むこと、それが命令です。 2ヨハネ

・そしてヨハネは、「愛し合うことの勧めに」に続いて、厳しい注意を記しました。それが今日のテキスト（2ヨハネ7-11）です。では、「なぜ」ヨハネは「厳しい注意」の言葉を書き送ったのでしょうか。ご一緒に考えてみましょう。

### 大切なポイント

1. 真実の愛は真理を喜ぶ

- ・ 先ず、何よりも大切なことは、神の愛から離れてはいけないことです。聖書は真実の愛は、次のようであると教えています。
- 13:6 不正を喜ばずに、真理を喜びます。 1 コリント**
- ・ 神の「真実の愛」には、不正はありません。汚れた部分はありません。全くピュアー（純粹）な愛であります。私たち人間が持つ愛は、残念ながら計算した愛、肉欲に属する愛にすぎません。
  - ・ しかし私たち聖徒が神から受けた愛は、真実の愛です。それは不正を排除した、真理そのものです。イエスは「わたしは真理です」と言われましたが、私たちのうちに、イエスの愛が姿を表されるところに、真理の愛が現れ、そこにこそ聖徒の歩みがあると信じます。
  - ・ すなわち、聖徒の生活にイエス・キリストが大きく現れることです。それは年老いた使徒ヨハネの強い願望であり、何よりも神の生徒への願いでもあります。

#### 『例 話』

- ・ 私の好きなドイツ語の表現の一つに、次のような文があります。  
 “Jesus ist im meinen Leben groß geworden “  
 （直訳：イエスは私の人生で大きく現れてくださった）
  - ・ つまり、私の不足するところがイエスの愛によって覆われ、イエスの愛が大きく現れることです。それは又、「教えられた、学んだ」という意味に派生していきます。
  - ・ キリストの福音が初めに届いた欧州の真のクリスチャンから、私は信仰の厚みというものを教えられました。欧州のキリスト教は1000年、2000年ではなく2千年もの歴史があります。もちろん、その長いキリスト教史で、教会も聖徒も多く、あやまちや罪を犯してきました。マイナス面があったことは事実で否めません。
  - ・ しかし一方では、プラス面も存在したことも事実です。欧州のキリスト教史を見ると、神を恐れ敬虔に生きた聖徒たちが多数いました。彼らは不正を喜ばず、キリストの愛、真実の愛に信仰が燃やされて立派に生きた人々でした。
  - ・ 真実の愛に生きた聖徒たちの姿は、確かに後世の私たちへのレガシー（遺産）となりました。  
 私たちは、まず「真実の愛」を覚えなければなりません。
- 13:6 不正を喜ばずに、真理を喜びます。 1 コリント**

## 2. キリストの真実の福音

- ・多くの場合、世の人々は「クリスチャンは寛容であり、なんでもハイハイと言って受け入れる」と思うことが多いのではないのでしょうか。ヨハネはそんな軟弱なイメージを打ち壊すかのように叫びました。

- ・ 2 ヨハネの手紙 7～11

1:7 こう命じるのは、人を惑わす者たち、イエス・キリストが人となって来られたことを告白しない者たちが、大勢世に出て来たからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。

1:8 気をつけて、私たちが労して得たものを失わないように、むしろ豊かな報いを受けられるようにしなさい。

- ・なぜ、ヨハネはこのように厳しい注意を発したのでしょうか。その理由は次にありました。

### 1) グノーシス主義 (異端)

- ・この手紙が書かれた背景には、当時危険な教えとして警戒されたグノーシス主義という思想が、キリスト教会内に入ってきていました。グノーシス主義とは、霊は善であり、物質は悪であるという極端な二言論でした。

- ・この見解からするならば、霊である神が物質である肉体をとって地上に生まれるはずはないという道理です。

- ・グノーシス主義者は、神であるお方が肉体をとって人間と同じようになるはずはない、と考えました。したがって人の姿をしたイエスが神であるはずはあり得ないと主張しました。

- ・ヨハネは次のように言いました。

1:7 こう命じるのは、人を惑わす者たち、イエス・キリストが人となって来られたことを告白しない者たちが、大勢世に出て来たからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。

- ・異端とは、人を惑わし、反キリストであります。真実の愛、アガペーの愛から離れ、真理の神から遠ざけようとする悪の働きです。

パウロは次のように述べました。 ガラテヤ人への手紙 1章

1:7 ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたを動揺させて、キリストの福音を変えてしまおうとする者たちがいるだけです。 ガラテヤ

1:8 しかし、私たちであれ天の御使いであれ、もし私たちがあなたがたに宣べ伝えた福音に反することを、福音として宣べ伝えるなら、そのような者はのろわれるべきです。 ガラテヤ

1:9 私たちが以前にも言ったように、今もう一度、私は言います。もしだれかが、あなたがたが受けた福音に反する福音をあなたがたに宣べ伝えているなら、そのような者はのろわれるべきです。 ガラテヤ

## 2) 現代の異端

- ・現代も聖徒を「**真実の愛**」から、遠ざけ、反キリスト者となる誤った教え（異端）は存在しています。いや、異端は時代を超えて姿を変えて現れていることは確かです。

### ① 日本の異端御三家

- ・旧統一協会（世界平和統一家庭連合）
  - ・エホバの証人（ものみの塔聖書冊子教会）
  - ・モルモン教（末日聖徒イエス・キリスト教会）
- ・多数の人々は誤った教えに洗脳されていますので、非常に危険です。洗脳の恐ろしさを覚えます。今日は、その深いところにまで入る時間はありません。しかし説明するまでもなく、洗脳の恐ろしさと危険は現実です。

#### 『例 話』

阿部元首相殺害事件の容疑者の母親は、洗脳されている事実。  
彼らは、組織から離れない

### ② 異端の特徴

- 1) 神の言葉である聖書の他に、独自に経典を持っている。あるいは独自の聖書を持ち、曲解と付け加えをして挑戦している。
  - 2) メシア的教祖を、それぞれが有している。  
そして教祖に服従という特徴がある
- ・ヨハネはそのような異端に対し、次のように述べています。
- 1:10 あなたがたのところに來る人で、この教えを携えていない者は、家に受け入れてはいけません。あいさつのことばをかけてもいけません。
- 1:11 そういう人にあいさつすれば、その悪い行いをともにすることになります。
- ・では、生徒は異端が横行する社会で、どのように生きるべきでしょうか。

## 3) キリストの教えにとどまること

1:9 だれでも、「先を行って」キリストの教えにとどまらない者は、神を持っていません。その教えにとどまる者こそ、御父も御子も持っています。

- ・キリストの教えにとどまるとは、短く言えば、キリストを着る者となることではないかと思えます。

#### ローマ 13 章

13:14 主イエス・キリストを着なさい。欲望を満たそうと、肉に心を用いてはいけません。

- ・イエス・キリストで身を固めることです。そこに聖徒が守られる奥義があります。そしてさらに素晴らしい」ことに、主イエスの栄光が表されています。

“Jesus ist im meinen Leben groß geworden “

(直訳：イエスは私の人生で大きく現れてくださった)

- ・ここで、私たちは忘れてはいけないことがあります。それは、「異端の教えは憎んでも、異端に陥った人は愛すべき存在であること」です。なぜなら、彼らもキリストの救いに与るべき人であるからです。

### ま と め

主 題：「きびしい注意」

—真実の愛に生きる—

- ・使徒ヨハネは、自分の人生が残り少ないことを知り、第二ヨハネの手紙で、「真実の愛に生きる」大切さを記しました。社会には今も、聖書を違って解釈し、異端へ導こうとする悪の力は存在しています。
- ・私達聖徒は、どう生きるべきでしょうか。

#### コロサイ人への手紙 3 章

3:9 あなたが古い人をその行いととも脱ぎ捨てて、

3:10 新しい人を着たのです。新しい人は、それを造られた方のかたちにしたがって新しくされ続け、真の知識に至ります。

\* God bless you !